

第1回辰巳ダムデザイン検討委員会 議事要旨

【日時】

平成17年11月17日(木) 13:00～15:00

【場所】

石川県庁 11階 1102 会議室

【出席者】

川村 國夫 委員、 北浦 勝 委員、 玉井 信行 委員、 鏑 隆弘 委員、
橋本 澄夫 委員、 山岸 政雄 委員、 吉田 等 委員、 畦地 実 委員、
石井 達夫 委員、 野尻 安司 委員 (10名)

【会議概要】

1. 開会

・事務局の司会進行により開会された。

2. 挨拶

・石川県土木部長より、挨拶が行われた。

3. 委員会の設立趣意及び設置要綱について

・委員会の設立趣意及び設置要綱について確認がなされた。

4. 委員の紹介

・各委員の紹介がなされた。

5. 委員長選出

・委員互選の結果、玉井委員が委員長として選出された。

6. 議事

- 1) 議事の公開の可否確認
- 2) 辰巳ダムデザインに係る経緯と位置づけ
- 3) 辰巳ダムの景観特性
- 4) 辰巳ダムデザイン検討委員会の進め方
- 5) 今後のスケジュール

・上記議事について、事務局より説明、各委員による質疑・意見交換がなされた。意見等議事内容については議事概要に示す。

7. 閉会

・事務局の閉会の挨拶が行われた。

【議事概要】

1) 議事の公開の可否確認について

・会議の公開について確認が行われ、委員の了承を得た。

2) 辰巳ダムデザインに係る経緯と位置づけについて

・犀川水系河川整備基本方針ならびに整備計画の策定や辰巳ダムの新計画など、辰巳ダムデザインに係る経緯と位置づけについて事務局より報告が行われた。

3) 辰巳ダムの景観特性について

・事務局より、辰巳ダムの景観特性について説明が行われた。

・各委員からの主な意見・質問は以下のとおり。

- ・ダム建設に際して、予期せず失われる景観はないか、留意してほしい。(山岸委員)
- ・ダムは高さのある構造物であるため、建築で用いる日影チャートのような日影の予測も必要である。(山岸委員)
- ・モニタージュによる予測において、四季の変化も考慮してほしい。(山岸委員)
- ・辰巳用水東岩取入口は生きた文化財ともいえる。周辺環境整備の立案にあたっては、既存の歩径路の活用その他、上下流と双方を含めた見学や管理のための動線について検討する必要がある。(畦地委員、橋本委員、玉井委員長他)
- ・ダム下流側においては、既存の辰巳用水東岩取入口などの学習の場の景観を阻害しないような工夫が必要であり、ダム上流側においては、全国的にも珍しい洪水調節専用ダムとしての新たな学習の場を創出するとともにダムの存在感を示すことが考えられる。(川村委員、北浦委員)
- ・戦前に造られたダムには個性的で美しいものが多い。次回委員会において紹介してほしい。(吉田委員)
- ・辰巳ダム自体が将来の文化・土木遺産となるような景観創出が必要である。(吉田委員)
- ・堤体面の表情や上手な見え隠れのしつらえのほか、絵を描けるような視点場への気配りなどが重要となってくる。(山岸委員)
- ・人工構造物と自然の接点となる地山境界部のデザインが重要であるため、緑化も含めた境界部のデザインに留意してほしい。(鏑委員)
- ・ダム本体の下流面及び減勢工の右岸側壁は、重要な景観要素であり、その高さやスケール感について十分な検討を行ってほしい。検討に際して、フォトモニタージュやランドスコープによる予想写真と実際の肉眼では見え方が違うという点(前者の方が小さく影響が少ないように見える傾向がある)に注意が必要である。(鏑委員、石井委員、玉井委員長他)
- ・ダム計画地周辺ではヤマメやマスが確認されている。上下流の連続性に配慮した、魚に優しいダムとなるよう期待している。そのためには、魚道他について十分な検討を行ってほしい。(畦地委員、野尻委員)
- ・ダム建設後の流量変化について、平時と洪水時双方について教示願いたい。(北浦委員、畦地委員) 犀川ダムとの連携運用により、最低の流量は確保する計画であり、現在より流況は改善される。また、洪水時にはその大部分が減勢工より下流河道へ流下するため、辰巳用水トンネル内では、現在より安定した流量となると考えられる。以上より、魚類への影響及びトンネル内の安定については現在より改善されると考えられる。(事務局回答)
- ・ダム工事中の辰巳用水への影響(給水方法と濁水の流入の可能性)について懸念している。(橋本委員) 辰巳用水へ常に給水できる方針で施工方法を考えることとしており、また、

河川の切り回しを行うため、濁水が辰巳用水へ流れることは無いと考えている。(事務局回答)

・第1回委員会のまとめが委員長から提示され、意見の一致を見た。
今までに行われてきた検討に加え、以下の観点を特に意識した議論を今後行う。

- ・自然界の法則に則ると共に、辰巳用水取入口に圧迫感を加えない施設が重要である。
- ・ダムは将来に長く残る施設であるから、金沢の文化を後世に伝えるものを目標としたい。
- ・ダム下流側には歴史的史跡であり現在も使われている辰巳用水取入口があり、また新しいダムは全国的にも珍しい治水専用ダムである。こうした独自性を学習する場としての価値を考えたい。
- ・辰巳ダムを取り巻く光線や季節は、年間を通して変化するものである。これらの全体像を検討したい。

4) 辰巳ダムデザイン検討委員会の進め方について

5) 今後のスケジュールについて

- ・辰巳ダムデザイン検討委員会の進め方及び今後のスケジュールについて、事務局より説明が行われた。
- ・委員会の進め方については、開催回数にはこだわらず、必要な検討を行っていく。そのひとつとして、別途検討を行っている水理模型実験の視察を行いたい旨、意見提示がなされた。
- ・今後は、模型やCGを活用して具体的なデザイン案の検討を行っていく。